

オオミドリシジミ *Favonius orientalis* (Murray)

【選定理由】

本県では以前は丘陵から山地に広く分布していたが、近年では平地や丘陵部ではほとんど見られなくなった。本種は1988年の「愛知県のミドリシジミ類」においても稀であるとの記述が見られる(鈴木・中野, 1988)。最近の愛知県の記録でも平野部ではほとんど目撃、採集されていない。

【形態】

♂の表面外縁の黒帯は *Favonius* 亜属中最も細く、後翅においても細線状。裏面の地色は灰白色～暗白色。後翅第 1b+c 室は全く橙鱗を含まず、肛角部と第 2 室の橙色斑は完全に分離する。開張 35mm 前後。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市守山区、豊田市(旧小原村、旧足助町、旧旭町、旧稲武町)、設楽町(旧設楽町)、豊根村、瀬戸市などの丘陵・山間部から平地にかけての記録がある。

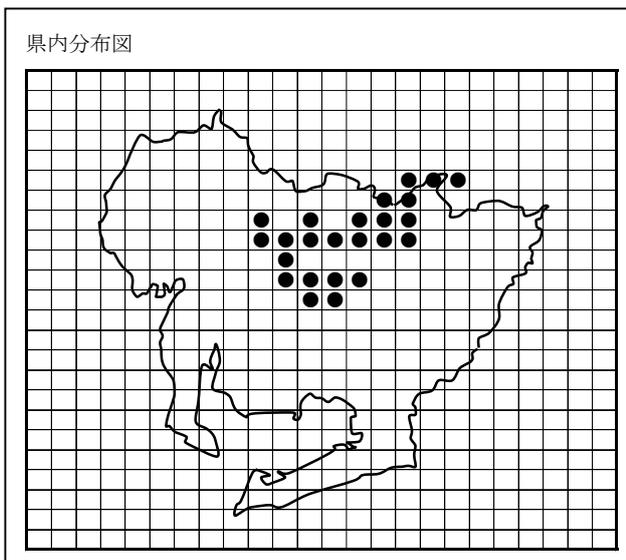
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。関東の平野部にも産する。

【世界の分布】

日本、ロシア南東部、モンゴル、朝鮮半島、中国東北部及び中部～西部。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

平地から丘陵地の雑木林から山地のミズナラ林まで多様な森林環境に生息する。年 1 回の発生。県内では 6 月上旬から発生し 7 月上旬に多く見られる。♂の飛翔活動は午前 10 時頃から午後 1 時頃が活発である。(江田, 未発表) 食樹はコナラ、クヌギ、アベマキ、ミズナラで、卵は低木の小枝の分岐部などに見られる。越冬態は卵である。

【現在の生息状況／減少の要因】

丘陵から山地に分布しているが、近年では県内の低山帯の開発などの環境の悪化により現在では山地でしか見られなくなった。

【保全上の留意点】

雑木林など里山の環境の保全や山間部での林の間伐などの保全が必要である。

【引用文献】

鈴木哲彦・中野善敏, 1988. オオミドリシジミ. 愛知県のミドリシジミ類. 佳香蝶, 40(150): 13.

【関連文献】

高橋匡司ほか, 2001. 旭町のチョウ類. 旭町の昆虫: 253. (財)旭高原自然活用村協会.
白水 隆, 2006. オオミドリシジミ. 日本産蝶類標準図鑑: 113. 学習研究社, 東京.
日本チョウ類保全協会(編), 2019. 日本のチョウ: 127. 誠文堂新光社, 東京.

(2015 年リスト付属資料を一部修正)